

浄土宗コドモタイムズ

第26号

発行 浄土宗児童教化連盟

発行人 平野 仁司 〒252-0027 座間市座間1-3300 宗仲寺内 TEL・FAX 046-257-0397

「うちらお寺探検隊」がいろんなお寺をめぐって、その秘密を探りま〜す。

お寺 不思議 ハツケン!! ③

即成院 編



今回紹介するお寺は、即成院です。即成院は山号を光明山といい、京都の東山にある真言宗泉涌寺派の寺院であります。平安時代（正暦3年、992年）に恵心僧都が伏見に建立した光明院を始まりとしているそうです。関白であった藤原頼通は、宇治に平等院を建て極楽往生を願いましたが、その子橘俊

綱も寛治元年（1087）に伏見桃山に広大な山荘を造り、光明院を阿弥陀堂として移設しました。以後、数度の変遷をへて、即成院は明治時代に現在の東山の地に移されたそうです。即成院のご本尊である、阿弥陀如来と二十五菩薩（国の重要文化財）は、10世紀から12世紀にかけて盛んになった浄土信仰の時、非常に大きな像であり、功德が大きくなることを願った浄土信仰をよくあらわしていると言われているそうです。

阿弥陀如来と二十五菩薩は寛治8年（1094）に造られたそうです。寺伝では、恵心僧都作といわれているようですが、近年は、平安時代の仏師、定朝とその弟子による優品とされています。

↓次のページへ つづく

ふたりの道③

義経と法然さま

（牛若丸と勢至丸）

第三回 烏帽子を



鞍馬の山を飛びだした遮那王は、今の東北地方の平泉へ行く途中、大人になるための「元服の儀式」を行った。頭にカラスの羽のように黒くぬった烏帽子をつけ、侍の正式の服装をした。そして太刀を持つと、「私は源氏の大将だった源義朝の九番目の子である。父の名前の一字をもらい、これから源義経と名のる！」と堂々と宣言した。にくい平家を倒したい気持ちさらに高まっていった。都から遠く離れた平泉で、義経は武芸に励んだ。家来もふえてきた。平家の力が弱まってきた。兄頼朝が、平家を倒せと立ちあがった。二十二歳の義経は一目散に兄のもとへ。兄弟は涙を流し、力を合わせようと誓った。それより三十年前……

勢至丸は、比叡山でけんめいに修行していた。しかし、新しい疑問が……。「ここでも競争ばかりだ。武士の世界とおなじ。何のために僧となったのだ！」おまけに、僧兵が武器を持っていつも争いをしていた。人を救おうとしない。「こんなことでもいいのか？」とうとう比叡山のはずれの黒谷にこもることにした。そこで源光と叡空のふた

りの師匠の名をもらい、源空となつて、ほんとうの僧になるための勉強をはじめたのだ。すべてのお経を読み通した。保元元（一一五六）年、源空は二十四歳になった。黒谷にこもってばかりではダメだと思い、山をおり、たくさんの人々がお参りする嵯峨の清涼寺に行った。その年、天皇家も貴族も源氏も平家も親子兄弟が分かれて殺し合う戦いが始まってしまった。戦争で一番つらい目にあうのは、いつも一般の人たちなんだ。清涼寺で見たのは、生きることに悩み苦しむ人たちだった。人々は、必死に仏さまに手を合わせていた。「みんな救われたいのだ！」「どうしよう。どうすればいいのだ！」まだ若い源空には、さらに修行をつづけるしかない。しかし後悔はなかった。「私は、烏帽子も着ない男だ」と、のちに言っている。烏帽子を着ることをやめ、きつぱり武士をすて、僧として人々を救おうと決心した言葉だね。そして、二十年後の四十三歳の時、「けんめいに南無阿弥陀仏となえて、仏にたのむのだ。それだけで救われる」と、念仏の道を見つけたのだ。こうして、法然さまとなった。仏教のほんとうの道をゆくという意味だ。



つづく

「うちらお寺探検隊」がいろんなお寺をめぐって、その秘密を探りま〜す。

↓ つづき

# 寺 不思議 ハッケン!!

即成院 編

阿弥陀如来の高さは5.5メートル。居並ぶ二十五菩薩もそれぞれ像高が150センチあります。どちらも寄木造りでできており、30数種類の木からできているそうです。また、表面だけでなく内側にも金箔がはられているということ、とても価値のあるものだそうです。二十五菩薩はそれぞれ楽器をもっており、極楽からの仏様のオーケストラのようにも見えます。

即成院は、鎌倉時代の武将、那須与一ゆかりの寺院としても知られています。与一は、17歳の時、あの源義経にしたがい屋島の合戦に加わります。義経の奇襲により海に逃げる平氏でしたが、くやしかったのか、船を一艘出し、船首の竿に日輪の扇をつけ、義経にこれを射よというそぶりをします。これを義経が与一に命じ、見事その扇を射たと伝えられています。その後、病をえた与一は伏見で療養していたとき、熱心に即成院で阿弥陀さまを、信仰していたそうです。阿弥陀さまの仏徳を感じた与一は、即成院で庵を結び、亡くなったそうです。即成院には、四国から持ってきた、石でできた与一のお墓があります。

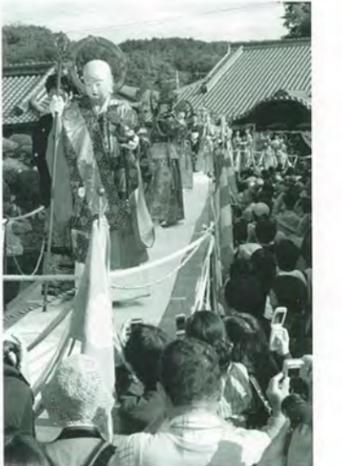
次は、毎年10月の第3日曜におこなわれる二十五菩薩のお練りについて



てです。これは、本堂を極楽浄土、地藏堂を現世に見たてて渡された、高さ2メートル、長さ50メートルの橋の上を大地蔵菩薩を先頭に、金色の菩薩の面に金欄の装束の二十五菩薩が、おごそかな来迎和讃に合わせ本堂から地藏堂へ、そして地藏堂から本堂へと練り歩くというものです。これは、阿弥陀如来の来迎によって極楽浄土へと導かれる様子をあらわしたもので、境内を埋めつくした善男善女は、現世の極楽を目のあたりにする法悦にひたるそうです。お練りの当日はたくさんの参拝者が



が集まります。橋のまわりで見学することができ、本堂に向かうかわい稚児の行列が花をくばってくれます。運がよければもらえます。お面はとも迫力のあるものでした。お練りに使われているお面は、和紙で出来ており何層にも、かさなっているそうです。最後に金箔をはるそうです。この表面の金箔は、傷がついたりしてきたら、替えるそうです。



**即成院**

○阿弥陀如来の周りには二十五体の菩薩が居並び、それぞれに楽器を持っています。琴や笙、琵琶など実在する楽器もありますが、中には今も昔も実在しない楽器もあるそうです。

○京都市東山区の寺院「即成院」は、真言宗泉涌寺総本山「御寺泉涌寺」の塔頭寺院であり、山号は光明山というそうです。

○那須与一は、源義経の家来であり、その命を受け京に向かう途中に病に倒れ、その療養をしている時、与一は即成院の阿弥陀を信仰していたそうです。それから病も治り「屋島の戦い」で、平家の船の上にある扇の的を一発の弓矢で射抜き一躍有名になっていたので、与一は日本中に知られる存在となりました。なので、与一がらみの噂は各地にあるそうです。後に与一は、出家して、「源平の戦い」で、亡くなった方々を弔うことに専念し、即成院の阿弥陀さまの前で最期を迎えたそうです。





# 質問箱

### 質問

最近やる気ができません。どうすればいいでしょうか？

(千葉 小六 男子)



### 答え

やる気がない事に悩んでいる方からの質問です。まず、やる気がない事に気づ

いているあなたは、とても素晴らしいと思いますよ。なぜなら「やる気がでない」という事は、「やる気がでない」自分を知っているからこそ思えるのです。やる気すら感じない人も世の中にはいます。そういう人たちに比べたらよっぽど良い事なのです。私はおじいちゃんに、「今日という日はどういう日かわかるか？」と聞かれた事があります。私はその時まで「今日」という事について考えた事はありませんでした。すると、おじいちゃんは続けてこう言いました。「今日という日は昨日亡くなった人が、なんとしても生きてきたかった

のが今日という日だよ」と。今になってその意味がとてもよくわかります。

私たちが今生きている今日という日は、昨日亡くなった人が何としても生きてきたかった一日なのです。逆に言うと、私たちはその「今日」があるのです。そう考えると、「今日」の大切さ・有り難さを感じませんか？せつかな大切な一日。やる気なく過ごすのはもったいないですよ。毎日を今日という一日しかないという気持ちで一生涯生きましよう。また、「今日」がある自分に感謝しましょう。

今今という間に今はなく今今という間に今ぞ過ぎゆく

### 答え

はい。人には背の高い人、低い人それぞれいます。背の低い人が背の高い人とお話しする時はどうなりますか。相手を見上げますね。逆に高い人が低い人の顔を見る時には、見下ろしてしまいますね。おかしなもので、人は自分より小さい相手には、気持ちが優位に思えてしまうのです。決してそういうつもりはなくても、相手を見下ろしがちになります。

反対に自分より大きいもの高いものに対しては、自分が劣っているかのように思え、相手をおそれ敬う気持ちが生まれます。仏さまを敬う気持ちを持つために、お仏壇の仏さまは一番上におまつりしてあるのですよ。同じようにお寺の本堂の仏さまも高い所のおまつりしてあります。お参りする人が、謙虚な気持ちで仏さまを見上げて拝めるのです。

### 質問

お仏壇にある仏さまは、どうして一番上にまつってあるのですか。

(大阪 小五 女子)



晴太くん

寺田 剛



お知らせ

◇みなさんからの記事お待ちしています。学校でのこと、家の中のこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。

◇またみなさんからの作品もお待ちしています。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。

◇送り先は  
〒252-0027 座間市座間一三三〇〇  
宗仲寺内 浄土宗児童教化連盟事務局  
感想もいっしょに書いてくださいね。  
TEL/FAX 046-257-0397

これも仏教の言葉だよ!

三昧 (さんまい)

友達とはしゃいでいたら、お母さんが大切にしている花瓶をガッチャーン!!

「もう、あなたたちはいつもいつも、いたずら三昧、悪さ三昧。いかげんにしなさい!!」  
もう大目玉。

「ごめんなさい」

この三昧は、仏教語なんだよ。もちろん悪い意味ではなく本当は、精神統一して集中し仏教の修行をする事なんです。

比叡山の常行堂では、常行三昧という修行をされていて、阿弥陀様の周りを九〇日間も寝ずにめぐり歩いてお念仏をされているそうです。すごいね!!

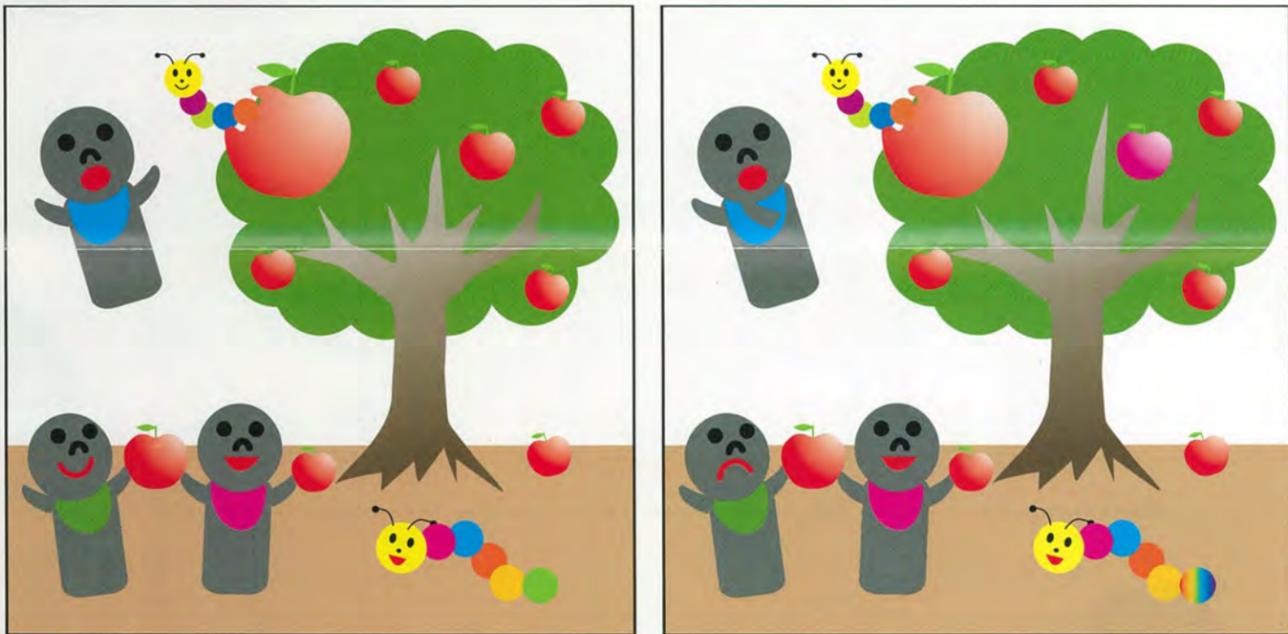
だから、みんなもいたずら三昧ではなく、勉強三昧してね。



みんなであらう  
考えよう

ちがいがし

絵：田畑会海



左の絵と右の絵のちがうところを5つ見つけてください。ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送りします。記事の感想や意見もいっしょに書いてくださいね。しめきりは2月10日です。

送り先

〒252-0027

座間市座間一三三〇〇

宗仲寺内

浄土宗児童教化連盟事務局

TEL/FAX

046-257-0397

前回の答え

1. リスの口
2. 左の木の葉の数
3. 右の葉の色
4. 地面の栗の数
5. 右のお地藏さんのまえかけの色

ふくふく編集室



みんなは大好きな本に出会ったことがありませんか。超お気に入りの本はありませんか。大好きな本だったら、何回でも読みますね。

同じ本を繰り返し読むたび、新しい発見をすることがあります。以前読んだ時には気づかなかったことに気づくのです。

浄土宗を開かれた法然上人は、若いころ比叡山の青龍寺というお寺で修行しておられました。そのお寺の報恩蔵には五千巻ものたくさんのお経が保管されています。法然上人はその一切経というたくさんのお経を五度お読みになったのです。

その中の「観経疏」という書物に「一心に南無阿弥陀仏と唱えれば、必ず極楽世界に生まれることができる。それは阿弥陀仏の心になつた行である」という一文を見つけられました。そしてみんなに南無阿弥陀仏のお念仏を広めるために浄土宗を開かれたのです。本との出会って大切ですね。